異常気象

ハナビラ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
異常気象

【Ｎコード】
Ｎ３７０４Ｃ

【作者名】
ハナビラ

【あらすじ】
どこにでもいるような、ちょっとアホな主人公ミキが世界を救うために選ばれた！？そんなミキが仲間と異世界トリップして世界を救おうとするお話。

第一話：日常生活

『異常気象』
今この話題で学校中、世界中までもが持ち切りである。
私の名前は須王　ミキ。これでもテニス部の部長をつとめている。
『ねぇミキ、今日の部活ヤバくない？』
同じ部活で、クラスも同じである親友の斉藤　奈々が聞いてきた。
『うーん。また倒れる人がいるかもね…。』

今は5月。なのに猛暑が続いている。
日本だけじゃない。ハワイでは雪が降ったし、オーストラリアでは大地震が起こった。他にも世界各国で異常な事が起こってる。

私の学校にはクーラーがある、それだけでも幸せだ。

『ミキ！！数学のノート貸して！！』
いきなり出て来たコイツは竹内　翔。幼馴染みであり、うちの隣りに住んでいる。ちなみに席も隣り。
『またぁ！？もぅ、しょうがないなぁ。』

カバンの中をごそごそ探す。

……。！？

『アレ？？ない！！…家に忘れたぁ！！！！！』
『アハハハ！！　馬鹿だぁ。』
『翔だってぇ！！！』
『俺はノート持ってるもん。宿題やってないだけ～。』

あぁ最悪…。それにしてもムカツクなぁ。
『あ！私今日あたるじゃん！！　…奈々ぁ、見せて☆』
『ハイ、どうぞ。』
『ありがと『サンキュー！！』
翔に横取りされた。

『ちょっと！！私に貸してくれたの！！』
『俺が終わったら貸すから！！　斉藤さん、借りるね。』
結局ノートが来ないまま数学の時間が来てしまった。
『これでも急いだんだよ。』
『……。』
『シカトすんなって（笑！！』
もぅ口聞いてやんないんだからっ！！
『須王さん、３番の答えは??』
げっ…分かんないよぉ…。
翔をにらみつけてやった。
するとノートに大きく
「ア」と書いてこっちに見せて来た。
本当か…??よしっここは信じよう！！
違かったら今度こそ口聞かない！！
『えっと…ア??』
『はい正解。』

おぉ！！合ってた。
翔はこっち向いてピースしてる。
こっちもちょっとピースしてみた。

『やっぱ仲いいね君達。付き合っちゃえばいいのに。』
休み時間になって奈々がやって来た。
『ありえない！！　私はもっとこう優しくて、そして…』
『まぁコイツは俺のペットみたいな感じだからな。』
『誰がペットだぁ！！』
『ほらミキ、お手。』
『絶対……ィャ！！』

こんな感じで平和な日常生活は過ぎていった。

第二話：夢と現実

国語のおじいちゃん先生は聞こえないくらい小さな声で話していて眠くなる。
またいつものように深い眠りについていた。

そしていつものようにチャイム直前に目が覚めた
…はずだった。

でもまだ授業は続いてる。時計を見るとまだ授業が始まってから15分しかたってない。

あれ??変だなぁ。
『翔!!　翔!!』
隣りの翔に小声で話しかけた。

しかし翔はだるそうに黒板を見据えたままだった。

は??　シカト!?
消しカス投げてやろ。
　ポイ…ポイ…

消しカスはどんどん翔の頭に積もっていく。

あれ??よく見ると翔はまばたきを1回もしてない。

いつの間にそんな技をっ!?
ん??静かすぎる。
先生は黒板の前で固まってる。

何で！？

『先生！！…』

呼び掛けても何の応答もない。クラスのみんなも反応が全くない。

いつも私が寝てるから、新手のいじめかっ！？

翔の鼻の穴にペンを突っ込んでみた。

しかし翔は平然としてる。

ぶっ！！　おもしろっ！！

でもやっぱ変だ。

立ち上がって歩き始めた。

翔だけじゃなく、みんながまばたきをしてない。

『な…にこれ。』

思わず口に出した。

『もしかして…時間が止まってる――！？』

蝋人形がたくさんある教室に自分がいるような感覚に陥った。

これは夢だ！！　夢なんだ…。

でも…

――コワイ。何かすっごく怖い。
ここから出たい！！

そう思ってドアを開け、廊下に出ようとした。

でもドアを開けると廊下はなく、真っ暗な闇だった。
その闇に吸い込まれどんどん落ちてゆく。
どうやら深い穴に落ちているようだ。

いやだぁ！！！

そう思いながらも私の意識はなくなっていった。

第3話：旅の始まり

……ん??

そこは眩しいくらい真っ白な部屋だった。

ここ…どこ??

ゆっくりと体を起こした。

あぁ私、廊下に出ようとして…落ちたんだ。

そんで……ん!?!?

隣りを見ると人が横たわってた。

キレイなサラサラの金色の髪をしている男の子だ。

『ねぇ!!　大丈夫??』

ゆすってみると、その子は目を覚ました。

彼の瞳は透き通るような青い目をしている。

そして周りを見渡してから起き上がった。

少しの間、その外国人の男の子に見とれてしまった。

やばっ!!英語分かんないょぉ…

『はっ、はろぉ?』

『君、日本人か。ここはどこなんだ??』

うぁっ…日本語ペラペラ！！！

『えっと…わかりません。時が止まって、落ちて…気付いたらここに…』

『僕と同じか。他に人は??』

『えっと…見てないです。』

〈ミキ・須王、そしてケビン・M・アンダーソン。〉

品のある女の人の声が聞こえる。けど、姿が見えない。

今…私の名前呼んだ??

『誰だっ！！』

〈私は時の守護神。選ばれし5人の者達を呼んだのは私。〉

『私達が選ばれし者??』

〈そうです。自然があなた達を選んだ。〉

『5人って…後の3人はどこなんだ??』

〈すでに世界に行っています。まずはその者達に会うのです。〉

ん??意味わからん。

『どんな奴等だ??』

〈あなた達と同じ物を持っている。あなた達を狙う闇に気をつけるのです。さぁ行きなさい。〉

ぇ！？ちょっと！！私達、狙われてるの！？

『待ってくれ！！』

まばゆい光が2人を包んだ。
まぶし過ぎて目をつむってしまった。

光がおさまり目を開けると、そこは見渡す限り木が茂る森だった。

ここ…どこ！！！

意味わかんない。もぅ家に帰りたいょ…。

『おい。』

『はっはい！！？？』

えっと…この人の名前…ケビン・M・何とか…だっけ？？

『ここ、どこだ？？』

……はぃ！？

『知らないよぉ！！！』
あぁ…ヤダ。帰りたい。ここってジャングル？？絶対に日本じゃな

いし。あっパスポート持ってない！！

ぐいっ

突然、手を引っ張られた。
そして人の手を勝手に観察してる…ぁれ！？
私の手に見たことのない指輪がはまってた。

『指輪…？？』

よく見るとケビンという人の指にもはめられていた。
私のは真っ赤な石が、ケビンには真っ青な石がついている。そして両方の指輪に王冠の様な装飾が施されてた。

『お前のは赤か…。あとの3人も指輪を持ってるということか。』

『あの…私、須王ミキって言います。』

『知ってる。』

ぇえ！？！？

『さっきの声が言ってただろ。』

『あぁ、そっか。で、お名前は？？』

『ケビン・ミッチェル・アンダーソン。』

嫌そうに彼は答えた。

うぁ、感じ悪い。きっと世間知らずの坊ちゃんだろうな。

『おい！！』

『何！？　ってちょっと！！』

気付くと置いてかれてた。

『早くしろっ』

『あっ待ってェ！！』

私、これからどうなるのぉ…。でも1人じゃなくて良かった。

第3話：旅の始まり（後書き）

アドバイスや感想を書いてくださると嬉しいデス（＊'∪'＊）

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3704c/

異常気象

2010年10月28日04時50分発行